

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	西部地区まちづくり推進事業			事業番号	25-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	都市部	重田 浩光	都市政策課	飯田 裕一	

計 画 (Plan)

総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち			
		基本政策	8	自然と調和した住みよいまちづくり			
		施策展開の方向	1	愛着のある美しいまちをつくる			
		施策	25	地域の個性あふれるまちづくりの推進			
予算事業名	西部まちづくり推進事業費						
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない		
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	-		
関連法令等	農業振興地域の整備に関する法律、都市計画法、伊勢原市地域まちづくり推進条例						
国・県の計画等	国道246号バイパス(厚木秦野道路)建設事業、県立いせはら塔の山緑地公園整備			計画期間	平成8年度から平成32年度		
関連個別計画	-			計画期間	-		
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	国道246号バイパス(厚木秦野道路)の(仮称)伊勢原西インターチェンジ開設及び一部開園された県立いせはら塔の山緑地公園の事業推進により、新たな交通結節点及び交流拠点が形成されることから、伊勢原市西部地区の活性化を図る。						
目的 (何をどうしたいのか)	地区の課題や資源を整理し、地域の魅力再発見や地域のにぎわい創出のための取組を進める。						
主な対象 (誰・何を対象に)	西部地区の善波地区、坪ノ内地区、栗原地区の住民及び来訪者						
事業内容 (手段、手法など)	・(仮称)伊勢原西インターチェンジや県立公園の整備などを踏まえ、地域特性や課題が異なる地区ごとに地域活性化に向けた取組を検討し、地域のまちづくりを推進します。						
事業行程	項目	年度					
		28年度	29年度				
	地域活性化の検討	地域資源活用検討	地域資源活用検討				
	まちづくり計画	まちづくりの方向性の検討	まちづくり活動計画の策定				
地元組織	研究会の地区別活動の充実	まちづくり活動組織の充実					
目 標	【指標名】	【現状】	年度				
			28年度	29年度			
	西部地区のまちづくり事業の推進	地域への活動周知	まちづくりの方向性の検討	活動計画の策定			



事業実施(Do)へ

## 事業実施 (D○)

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)	地区ごとに異なる地域特性や課題を生かしたまちづくりを推進する。		
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施 <input checked="" type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b>
	<input type="checkbox"/> 補助金		<b>補助先</b>
	<input checked="" type="checkbox"/> その他		<b>具体的内容</b> 伊勢原市西部地区土地利用研究会
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>	
		<b>28年度</b>	<b>29年度</b>
	地域活性化の検討	地域資源活用検討	
	まちづくり計画	まちづくりの方向性の検討	
	地元組織	研究会の地区別活動の充実	
<b>実施した取組の内容</b>	・前年度の役員会や地区別会議により抽出した課題等を整理するとともに、3地区(善波、坪ノ内、栗原)毎に住民と協働して検討及び現地調査を実施し、次年度以降の取組方針としてまとめた。		
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>【現状】</b>	<b>年度</b>
			<b>28年度</b>
	西部地区のまちづくり事業の推進	地域への活動周知	まちづくりの方向性の検討

コスト	年度		28年度 実績				29年度 実績			
	<b>事業費合計 (a)</b>			11	千円			千円		
内訳	国県支出金 ①			0	千円					千円
	地方債 ②			0	千円					千円
	その他特財 ③			0	千円					千円
	一般財源 (a)-①-②-③			11	千円				0	
<b>国県支出金の内容</b>										
その他特財の内容	受益者負担		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		<b>前回の改定時期</b>					
	その他									
人件費	正規職員		0.3	人	2,595	千円		人		千円
	その他の職員		0	人	0	千円		人		千円
	人件費合計 (b)		0.3	人	2,595	千円		人		千円
トータルコスト (a)+(b)				2,606	千円					千円
単位当たりコスト	対象数	定義	伊勢原市西部地区土地利用研究会会員			単位	単位			
		対象数	120			人				
	総事業費／対象数	21,717			円	円				

評価 (Check)へ

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	左記判断理由	地区別会議や現地調査などにより、地区の現状と課題を整理するとともに、次年度以降に具体的に取り組む活動方針をまとめた。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業	—	他都市の事業内容等	伊勢原市西部地区という本市固有の地区における取組のため。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	国道246号バイパス(厚木秦野道路)の(仮称)伊勢原西インターチェンジや県立いせはら塔の山緑地公園の整備進捗により、地域活性化を目的としたまちづくり活動を進める機運が高まりつつあり、地区との協働によるまちづくり活動を推進していく必要がある。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	本研究会の活動を通して、地区の資源や住民のまちづくり活動のニーズを把握するとともに、様々な活動団体との連携を視野に協働によるまちづくり活動に取り組んでいる。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	<p>これまで本研究会の活動を通してまとめられたテーマである「景観を生かしたまちづくり」の実現に向け、地区のニーズに即した実践的な取組を展開していく必要がある。</p> <p>また、まちづくり活動を進める上で有識者(東農大など)の意見を聞き、市民協働などのまちづくり手法の活用を検討する。</p>
次年度取組方針		<p>本研究会を通してまとめられた具体的な取組方針に基づき、地区の資源を活用した花木の植樹や、散策路の整備・新設に向けた取組について、自治会や比々多地区観光振興会などの既存組織との連携を踏まえつつ、住民との協働により、実践的なまちづくり活動を推進していく。</p>		
所管部長による総評		<p>地域住民が地区の特性を十分に把握・理解した上で、地域の将来像を共有し、まちの魅力づくりなどが地域主体で進められることは、今後のまちづくりの主となる姿と考える。</p> <p>まちづくりには、地域住民の熱意と長い時間が必要であるため、地域が主体的にまちづくり活動に取り組む仕組みづくりやその活動を協働で実践し、着実にまちづくりを進めていく必要がある。</p>		